



キャリアパスフォーラム 第4弾 - 海外の日本語教育現場（ヨーロッパ編） - 開催報告

日時：2024年2月18日（日）16:00～18:00（※希望者は18:30まで延長）

場所：Zoomによるオンライン開催

参加者：66名（委員・登壇者を除く）

登壇者：内川かずみ（エトヴェシュ・ロラード大学 常勤講師）

吉岡慶子（ライデン大学 上級講師

地域研究学院日本研究専攻 日本語プログラムディレクター）

熊谷容子（ヨーテボリ日本人補習校 主任

ダーラナ大学言語文学教育学部日本語科 講師）

根元佐和子（パリ南日本語補習校 教師/教師代表）

東健太郎（国際交流基金ケルン日本文化会館 日本語上級専門家）

大船ちさと（国際交流基金ロンドン日本文化センター 日本語上級専門家）

チャレンジ支援委員会では、将来日本語教育にかかわりたい方・日本語教育の新たな分野にチャレンジしたい方などに日本語教育業界の多様な現場をよく知ってもらうためのイベントとして、「キャリアパスフォーラム」を年1回実施しています。

第4弾として、2023年2月18日（日）に「海外の日本語教育現場（ヨーロッパ編）」をオンラインで開催しました。事前の参加登録者88名のうち37名（42%）が中高生・大学学部生でした。

まず、チャレンジ支援委員会の委員より「挨拶・趣旨説明・海外の日本語教育事情の概要紹介」を行いました。その後、登壇者3組（1組2名）にヨーロッパでの現在のお仕事やご自身のキャリアパスについてご説明いただきました。大学にご勤務の方、継承語教育に取り組んでいらっしゃる方、日本の公的機関から派遣されてお仕事をなさっている方など、ヨーロッパ各地の様々な日本語教育現場でご活躍なさっている登壇者の方々から、日本では普段あまり聞くことができない貴重な情報提供がありました。その後、事前に参加者から寄せられた質問を踏まえ、「求人情報はどこで得られるのか」「大学院を出ている必要があるか」といった質問にそれぞれの登壇者よりご回答いただきました。次の「車座タイム」では、ブレイクアウトセッションで3つのルームに分かれました。大学勤務の登壇者2名が入るルーム、継承語教育をなさっている登壇者2名が入るルーム、日本の公的機関から派遣されている登壇者2名が入るルームのうち、希望するルームを参加者が自由に行き来しました。登壇者の皆さまには、前半の全体説明に加えさらに詳細な情報提供や参加者からの質問や相談への丁寧なご回答をいただきました。

フォーラム終了後に回収したアンケートでは、46名の回答者（回収率52%）のうち、大学学部生が31%と最多で、このイベントをどこで知ったかという質問への回答では「大学や大学院、養成講座の先生など他者からの紹介」が61%を占めていました。また、全体として今回の企画に対しては、74%が大変満足、26%が満足との回答で、自由記述には「あらゆる日本語教育のあり方をお聞きすることができ、自分が将来へ進むことに勇気が持てました」「聞きたい質問ができてとてもありがたかったです」等の回答がありました。今後のキャリアパスフォーラムに期待するテーマに関しては、大学学部生の参加者が多かったことを反映してか「日本語教育関連の大学院への進学」が最も多く、大学院進学への関心の高さがうかがえました。今回いただいたご回答は、次の企画にぜひ活かしていきたいと考えております。ご登壇くださった皆さま、参加者の皆さま、本当にありがとうございました。

チャレンジ支援委員会：安達・高村・立部・春口・平山（文責）



問合先：公益社団法人日本語教育学会（チャレンジ支援委員会）

TEL:03-3262-4291（平日9～18時のみ）E-mail:challenge@nkg.or.jp

